

大友氏顕彰会だより

おおとも

第 23 号

理事長 牧 達夫
編集 溝部幸祐



平成二八年度「会費」の納入

本年度（平成二七年度）の収支状況が厳しい状況ですので、できる方は三月三十一日までに来年度（平成二八年度・二八年四月一日～二九年三月三十一日）会費を納入してください。無理な方は四月一日以降すみやかに納入願います。
なお、法人会員の方には来年度会費の請求書（本年度と同額）を送付します。

二月「定例学習会」の開催

会場 大友氏遺跡体験学習館・大分市元町
日時 二月十四日（日）午後一時三〇分～
（二月七日の予定でしたが、他のイベントと重なったため十四日に延期）
内容 ① 「臼杵氏」について
② 兼松城と豊饒鎮運」について
③ 大河ドラマ関連 「真田三代」について
④ 来年度大友氏顕彰会活動に対する意見交換

『大友宗麟』を新聞に連載

本年六月より大分合同新聞に連載

歴史小説家で直木賞作家の安部龍太郎氏が、本年六月より『大友宗麟』を題材にした連載小説を大分合同新聞に執筆される。これは、本年（二〇一六）に創刊一三〇周年を迎える大分合同新聞の記念事業の一環。安部さんは「天分県の人たちが宗麟に對して誇りを持つような人物造形をした」と思っている」と話している。
この小説について安部さんは「世界に向けて開かれた視野を持って、それに対応しながら領国経営を進めていく。『グローバル化をどう生き抜くか』といった非常に今日的なテーマでもある」と構想の一端を紹介。一方で「先見性のある人ほど古い因習との闘いを迫られる。宗麟の生き方を考える上で、それを打ち破る側の闘い、相克というのも一つのテーマになる」と述べた。

大友氏顕彰バスツアー（報告）

『竹田の旅』

平成二七年十一月十四日（土曜）八時二〇分、一行（女性五人、男性十二人）は、大分駅の貸切バス乗場を出発する。

朝早く起きたとき降っていた雨も止み、曇り空の中をバスは快適に走り、一時間ほどで最初の目的地「ギリシタン洞窟礼拝堂」のある竹田市殿町に到着。バスを降りて、武家屋敷通りから小道をしばらく上って行くと、岩壁に「ギリシタン洞窟礼拝堂」があった。

この「洞窟礼拝堂」に、徳川幕府による禁教令のもと、外国人宣教師が隠れ住んでいたという。階段を上った所に格子扉があり、格子の間から中を覗くと正面に壁を掘り込んだ祭壇らしきものが見える。宣教師はここで毎日礼拝をしていたものと思われる。

また洞窟礼拝堂の右横に大きな洞窟があり、ここに「切支丹神父の住居跡」という標柱が立っている。標柱に「岡藩主・中川久盛公（二代）の家老・古田重治はこの洞窟に秘かに神父ペトロ・パウロ・ナバロと

次に一行は「竹田市立歴史資料館」に入館する。竹田市は一九七八年に伝統的文化的都市保存整備事業として国指定を受け、その核として一九八一年四月、この歴史資料



【キリシタン洞窟礼拝堂（竹田市殿町）】

フランシスコ・ブルドリの二人を保護していた。一六一七年（元和三年）より一六二〇（元和六年）まで」とある。
このキリシタン洞窟礼拝堂が発見されたのは昭和二八年ごろという。この辺りは町中に近いのに、人が近づけないほど竹林や樹木が密生していたそうである。



【竹田市立歴史資料館（竹田市竹田）】

館を開館したという。
館内には岡城の模型を中心に、岡藩時代から明治の軍神と云われた広瀬武夫の関係資料、田能村竹田の掛軸、瀧廉太郎の遺品、朝倉文夫の遺品等々が展示されている。
ここには国の重要文化財「サンチャゴの鐘」が置かれているはずだが、あいにく大分県立歴史博物館（宇佐風土記の丘）で開催中の「キリスト教王国を夢見た大友宗麟」

特別展に貸出中であつた。

サンチャゴの鐘はキリシタンベルで銅鐘の外側に「HOSPITAL SANTIAGO 1612」の文字が浮き彫りされている。サンチャゴ病院はコレジオ（高等神学校）の院長であつたメスキータ神父が現在の長崎市酒屋町に開設した施療院という。ここでサンチャゴの鐘が一六一二年に铸造したとみられている。

サンチャゴの鐘と同寸法・同成分で製作されたレプリカが資料館入口前に設置されており、鐘を鳴らすことができる。私もヒモを軽く引っ張ってみると、意外に大きく高い音が鳴り響いてびっくりした次第。

【サンチャゴの鐘】



次いで一行は「岡城」の駐車場に到着。この駐車場から見上げる岡城の威容もまた

すごい。建物は無いものの高くそびえている石垣には威圧感さえ感じる。岡城の築かれた天神山は標高三二五メートル、城域は東西二五〇メートル、南北三六二メートルの山城という。

伝承では一一八五年に緒方惟栄が、源平合戦に勝利したあと兄・源頼朝に追われた源義経を迎えるために岡城を築城したと伝

【岡城の石垣（竹田市竹田）】



わっている。しかし緒方惟栄は義経ら一行を守って摂津国大物浦（兵庫県尼崎市大物町）を兵船で豊後を目指して出港したが、船出のあと天候が急変し船団は難破してしまふ。緒方惟栄は捕えられ上州沼田荘（群馬県沼田町）に流罪。義経は逃避行の末、奥州平泉（岩手県平泉町）で討たれる。

その後、一三三〇年に大友一族の有力武将・志賀氏が大野郡志賀村から岡城に居城を移して二六〇年間続いた。

一五八六年に、肥後口から侵攻して来た島津軍の総大将・島津義弘が大軍（三万七千）を率いて岡城を攻め立てた。志賀氏十七代・親次は、わずか千人足らずの軍勢で要害の利と智力をもって再三再四にわたる島津軍の攻撃を退けたという。

島津義弘らは高くそびえる岡城の威容に圧倒されたようだ。四方は岩石立ち廻り蛾々とそびへてからめて無し、麓は大河漲りて渡るべき様更に無く」というありさまで、とても攻める手がかりをつかめそうには見えなかった（長谷場越前自記）とある。

私たち一行は、岡城に大手門口からゆっくり歩いて入城し、紅葉が真っ盛りの城内を見て廻る。

岡城は南北を流れる白滝川と稲葉川に囲

まれた標高三二五メートルの山城であり、四面どこから見ても目がくらむような断崖絶壁で、勇猛果敢な島津軍が攻めても落城できなかったことがよく分かる。

【岡城の本丸跡（出入口付近にて）】



「荒城の月」作曲者の瀧廉太郎は、幼少期を竹田で過ごしており、この岡城で曲の



【 瀧廉太郎の銅像（岡城二の丸跡） 】

イメージ（構想）を得たといわれており、二の丸跡に瀧廉太郎の銅像が、遠方の山並みを眺められる所に建てられている。若い女性観光客らに案内者が説明し、荒城の月をハーモニカで演奏しているのを聞く♪

春高樓の花の宴めぐる盃かげさして
千代の松が枝わけいでし昔の光いまいずこ

私たち一行は「天神丸福」という店で昼食。午後は竹田市総合社会福祉センターで開催する大友氏顕彰フォーラムに合流参加する。

大友氏顕彰フォーラム（報告）

大友氏 NHK 大河ドラマ化推進

フォーラム in 竹田

平成二七年十一月十四日（土曜）十三時三〇分から、久住町の堀悦子会員の司会で始まる。

◎主催者代表あいさつ

フォーラムを大分市以外の地方で開催するのは、昨年の臼杵市に次いで竹田市は二回目の開催となります。大分市のフォーラムでは四三〇人も集まり、準備した本や資料が足りなくなるほどで、会場に来られる方が着実に増えています。

なぜ竹田での開催かといいますと、志賀氏をはじめ朽網氏や田北氏など大友氏の有力家臣の地ですし、田能村竹田・小河一敏・広瀬武夫・瀧廉太郎・阿南惟幾などが出た地です。

本フォーラムでは、基調講演で後藤篤美

さんに「志賀親次」を中心に講演していただき、パネルディスカッションでは「櫻田啓・若杉孝宏・後藤篤美」三氏に「竹田家臣団」を語っていただきたいと思います。

基調講演 「大友宗麟と志賀親次」

後藤篤美 竹田市商工観光課

南蛮文化振興室長

◎志賀氏とは

志賀氏は大友氏の氏族で、田原氏・詫摩氏と並ぶ大友御三家の一つ。志賀氏初代・能郷は大友氏初代・能直の八男にあたり、一二四〇年に、豊後国大野郡大野荘志賀村（大分県豊後大野市朝地町志賀地区）の地頭職となり志賀氏を名乗る。

◎志賀氏以外の竹田・直入地方の家臣

○入田氏

現在の竹田市入田地区を本拠地とした大友家の加判衆（家老職）。入田親誠は大友宗麟の養育係を務めたが、「二階崩れの変」に関連して討たれる。入田宗和の代には島津軍の豊後攻めの際に内通。豊薩戦争終結後は入田の城を捨てて薩摩に従う。

○古庄氏

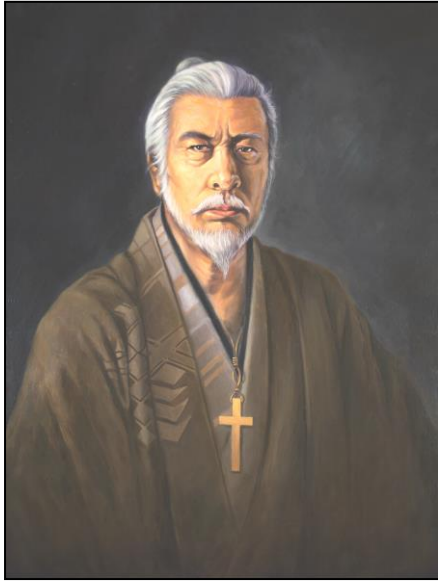
古庄重能しげよしは大友能直の弟ともいわれ、能直の家臣として豊後に下った後に、朽網郷を本拠地としたことから朽網くたみ氏の祖となつたとされている。

○朽網氏

現在の竹田市久住町と直入町の境を中心とした地域の太友家加判衆(家老職)。朽網氏は一五一六年、太友家に謀反を起こして一度は滅びるが、入田氏から鑑康あきやすが朽網氏を継ぎ朽網鑑康(宗暦)と名乗る。

朽網宗暦の嫡子・鎮則(宗策)は豊薩戦争の豊後攻めの際、島津軍に降参したことを咎められて討たれるが、子孫は福岡や久

【朽網宗暦(想像図・竹田市制作)】



留米で命脈を保つ。

フロイスの『日本史』に登場するルカスは朽網宗暦と考えられており、豊後で最初の教会を朽網に建てたという(日本史大友宗麟編)。

○田北氏

大友能直の孫「親泰」を祖とする。豊後国直入郡田北村(現在の竹田市直入町下竹田)を本拠地としたことから「田北氏」を名乗る。戦国時代の初めに太友家の加判衆(重臣)となる。

◎志賀親次(別名・親善)

志賀親次は一五六六年(永禄九年、一説では永禄十一年)〜一六六〇年(万治三年)で、九五歳(又は九三歳)まで生きる。

父は志賀親度(親孝・道益)、母は大友宗麟の娘(奈多夫人の連れ子)の嫡男として生まれ、幼名を太郎という。父の親度が太友吉統(義統)と不仲になったため、十九歳で志賀家十七代の家督を継ぐ。親次の妻は大友宗麟の孫の桑姫(マダレイナ)。

親次は一五八五年、臼杵の教会でゴメス神父から洗礼(ドン・パウロ)を受ける。親次が洗礼を受けたことにより、領内の主

だった武将もキリシタンに帰依した。

親次の受洗について、宗麟が述べた言葉として「デウス様は予の没後、予の代わりとしてかの若者を選び給うたようだ。彼はゆくゆく豊後のキリシタン宗団の偉大な支柱となるに違いないと信じている」。またフロイスは親次について「我らの主が国主フランシスコを御許に召し給う時、豊後の国においてはドン・パウロが一つの強力な円柱となろう」(フロイスの日本史より) 親次が受洗直後の岡領内の状況として、岡領内においては既に洗礼を受けた者が八千人を超え、なお三万人が洗礼を受けんとしている」(一五八八年、フロイスより)

【志賀親次(想像図・竹田市制作)】



イエズス会長に送った書簡より)

つまり当時、親次の家臣団および領民が四万五千人と『日本史』に書かれていることから、洗札を待っている者を含めると、全領民の八五%がキリシタン又はキリシタンになりたかったということになる。

親次は武将としても優秀で、一五八六年の豊薩戦争の際、島津軍の勢いに父の親度(道益)、祖父の親守(道輝)らが寝返る中、親次のみわずか千人で岡城に籠り、島津軍三万七千人もの大軍と戦って退けた。またその際、一万田城に取り残された天草の五人の武将を親次が包囲するも、結果的に助命した志賀親次の影響で、五人衆は後に洗札を受けることとなり、天草で一気にキリシタンが増加した。いわば天草のキリシタン信仰を確立した立役者が志賀親次だったともいえる。

◎親次(ドン・パウロ)の失脚と流転

大友吉統と共に文禄の役に出兵した親次は、誤った情報を吉統に伝えたため撤退。これを敵前逃亡とみなした秀吉の怒りを買って、吉統は豊後を除国。志賀親次も責任を感じて自ら岡城を去る。これについてフロイスは「日本のキリシタン宗門が従来体験

した最大の損失」と述べている。
岡城を去ってから親次の足取りについて「蜂須賀家政↓日田郡大井の荘(一千石)↓吉統と共に石垣原の戦いに参戦し敗北↓福島正則↓小早川秀秋(九百五十石)↓福島正則↓毛利輝元と流転し、山口県宇部市にて死去(九五歳、又は九三歳)」

【親次墓所の入口に立つ看板】

豊後岡城主・志賀親次の墓(宇部市)



【親次墓所から見える志賀家・岡屋敷】



◎長崎志賀氏

親次の叔父・志賀親成(志賀宗頼、志賀掃部助、林与左衛門、林ゴンサロ)は宗麟の後妻・ジュリアの連れ子・コインタと結婚し、親次に大きな影響を与えた。

志賀親成は大友氏の豊後除国後、大友宗麟の後妻・ジュリアらと共に長崎大村氏を頼って湊村に移り住み、湊村の庄屋として生き、長崎志賀氏の祖となっている。

パネルディスカッション

パネリスト

櫻田 啓 さくらだ けい 作家(大分県出身)

若杉孝宏 わかすぎ たかひろ 大友氏顕彰会副理事長

後藤篤美 あつみ あつみ 竹田市商工観光課南蛮文化振興室長

コーディネーター

牧 達夫 たかお たつお 大友氏顕彰会理事長

佐藤弘俊 ひろとし ひろとし 大友氏顕彰会広報部長

メインテーマ

「天友宗麟と竹田の家臣団を語る」

牧 大友義鎮(宗麟)は「二階崩れの変」で、若干二〇歳で二代の家督を継いだ。

宗麟は二一歳のときザビエルと運命的な出会をし、その後アルメイダとも出会う。アルメイダは終生の友、主治医、戦略家として宗麟を支えた。また宗麟は二〇代後半に府内から臼杵に移り住んだ。

櫻田先生、作家の立場で「二階崩れの変」はどうだったのでしょうか。

櫻田 大友宗麟を研究しているが、作家はウソが何割かあると叱られます。(笑い)

宗麟が二代当主を継げたのは二階崩れの変のおかげです。二〇代・義鑑は後妻が生んだ塩市丸を可愛がり、嫡男の義鎮を廃嫡して、家督を塩市丸に継がせようとしたことから事件が起こる。

家臣は義鎮派と塩市丸派が出て、義鎮派の二家臣(津久見氏、田口氏)は、大友館二階に寝ていた塩市丸と後妻を殺害し、義鑑に重傷を負わせ二日後に死去。義鑑の遺言により義鎮が二代家督を継いだ。

この事件は複雑で、首謀者とされた入田親誠は後妻と組んで塩市丸を擁立し、スキあらば大友家に乗っ取りたい。阿蘇惟豊や菊池義武ともからみあい、大内義隆も大友家を狙っていた中で起こり謎が多い。

牧 志賀親次と佐伯惟定は島津軍の攻撃にも落城せず、秀吉から激賞され日向の一城をそれぞれに与えると約束されたが、日向国を宗麟に与えるというのに宗麟が辞退したためダメになった。宗麟が辞退した理由は何でしょうか。

後藤 薩摩に近い日向なので危険を感じたのでは。

若杉 宗麟が死去する直前で、領国経営に

疲れ果てていたのでは。それよりも宗麟は「予の願いは信仰に…」ということだと思われる。

牧 大友宗麟の歴史的評価は何ですか。

櫻田 宗麟のすごいところは、戦国時代の一五七四年当時、ベストテンの中に入っている(上杉、北条、武田、毛利氏…)九州では大友、龍造寺、島津氏)。大友氏と島津氏は鎌倉時代からの守護大名で、少弐氏も同じだったが大内氏から滅ぼされる。大友氏は九州九カ国のうち六カ国の守護大名で九州一の大名となり、生半可な人では統治できるものではない。

宗麟は日本で初めて宣教師らと育児院を建て、外科手術もやれる西洋式病院を建設する。西洋式学校として臼杵に修練院(今の大学院)を建設(東洋にインドのゴアと臼杵の二カ所しかない)。府内にコレジオ(今の大学)を建設する。また肥前にセミナリヨ(今の高校)があり、伊東マンションもここで学んだ。

後藤 宗麟は戦国期である十六世紀の日本にあって、キリスト教を真に理解しキリスト教における日本最大の貢献者であった。



【 討 論 する コーディネーター (左) と パネリスト (右) の 皆 さ ん 】

牧 若杉さんは田北氏と関係が深いので、田北氏についてどうぞ。

若杉 私の父が城後田北氏（竹田市直入町下竹田）の出自で、若杉家に養子となり、それで若杉を名乗っている。田北氏は大友二代・親秀ちかひでの七男・親泰ちかやすが直入郡田北荘を譲り受けたことから田北氏を名乗る。

十六代の田北鎮周しげかねは大友軍の日向進攻に最も反対し、一命を賭して諫言かんげんするが宗麟は聞き入れず、日向の高城川原で島津軍との決戦に真っ先に突撃して鎮周はじめ一族郎党が討ち死にする。

牧 キリスト教がいち早く竹田に広まった理由は何でしょうか。

後藤 教会が最初に建ったのは府内か朽網か、書物によつてどちらもあるが、どちらが多いかといえば朽網のようだ。火薬を造るのに硫黄が必要で、久住の硫黄山から硫黄を取り出し輸出していた関係で、宣教師が来てキリスト教を広めたと思われる。

牧 大友氏の豊後除国後、江戸時代に各氏はどうなったのでしょうか。

若杉 本家の庄内田北家に田北文書が百点余り保管され、それによると本家の田北家

は庄内で大庄屋となり、城後田北家は上田かみだ北の大庄屋として生活してきた。

後藤 講演でも述べたように、志賀親次も岡城を去り、各地で流転の人生を送って、山口県宇部市にて死去する（九五歳または九三歳）。今も子孫が同地に残っている。

また志賀親次の叔父・志賀親成ちかなり（林ゴンサロ）は宗麟の後妻・ジュリアの連れ子・コインタと結婚。大友氏除国後は長崎の大村氏を頼って湊村に移り住み、湊村の庄屋として生き、長崎志賀氏の祖となる。

牧 歴史文化と地域活性化を図るため、何か提案があればお聞かせください。

後藤 志賀氏が長崎に移り住んだ所が豊後町となっているので交流を深めたり、ここでフォーラムを開催したら広がると思われる。

若杉 大友氏と関係が深い地域と交流するとよい。島津軍と決戦した日向高城川合戦があった近くの台地に「宗麟原供養塔」があり、当時田北鎮周しげかねが支配していた山香衆が大友軍として二千人も参戦し多くの人が

戦死した。毎年十一月十二日(大友・島津両軍が決戦し大友軍が敗北した日)に、山香の人々(大分鎮^{ちんしゅうかい}周会)と地元の川南町と供養祭で交流している。



【宗麟原(カンカン原)での供養祭風景】

櫻田 大変大きなテーマだが、身近なことから取り組むとよい。「山城サミット」や「山城ツアー」を岡城はじめ竹田の十三城をめぐるるとよい。

◎フォーラム竹田・アンケート(報告)

竹田市で開催したフォーラムの際、アンケート調査を実施し、57人より回答を得ましたので、その概要を報告します。フォーラム参加者の内訳は 会員40人、一般160人、合計200人」です。

一 年令についてお答えください。

- 19才 1人
- 20～29才 0人
- 30～39才 2人
- 40～49才 4人
- 50～59才 3人
- 60～69才 22人
- 70才 25人

二 性別についてお答えください。

- 男性 45人
- 女性 12人

三 大友氏顕彰フォーラムの開催を、どこで知りましたか? (複数回答可)

- チラシ 9人
- ホームページ 3人
- 新聞 17人
- テレビ・ラジオ 2人

- フェイスブック 0人
- 友人・知人 13人
- 会員・会報等 20人
- その他 4人

四 竹田周辺の大友家臣団は

ご存知でしたか?

- よく知っている 3人
- 少し知っている 40人
- 全く知らなかった 14人

五 大友氏顕彰フォーラムの内容は?

- 大変満足 19人
- やや満足 18人
- 普通 10人
- やや不満足 2人
- 不満足 0人

六 今回のフォーラムで一番面白かった、興味深かったことは? (複数回答可)

この項で回答された68人のうち①後藤さんの講演が良かった44人(65%)
 ②パネルディスカッション22人(32%)
 ③あいさつ2人(3%)となつている。
 以下、主な回答を記述します。

○志賀親次が95歳(93歳説もあり)まで生き、しかも山口県の宇部市に親次の墓があり子孫が残っていること。

○志賀親次が長崎とつながっていたこと、(長崎市浦上村の悟真寺に、親次の嫡男・親勝^{ちかかつ}など志賀氏代々の墓がある)を初めて知った。

○志賀親次と大友宗麟の関係が深いこと、親次の母は宗麟の娘(奈多夫人の連れ子)、妻は宗麟の姪^{ひな}が分かりました。

○大友氏の豊後除国後、志賀親次をはじめ各家臣の生き方や暮らしぶりが興味深い。

○亡父より志賀親次は先祖であると聞かされてきました。私はそのアイデンティティ(独自性)を何よりも心の支えに、そして誇りにしております。しかし親次のことを調べようにも、フロイスの『日本史』以上のものは得られず歯がゆい思いをしておりました。後藤さんの講演で新しい情報をいくつか得て、とても満足しています。また想像図の志賀親次は私の息子にそっくりで嬉しく思っています。奇妙な縁といえますか、息子のクラスメートに岡城を攻めた「新納氏^{にいなるし}」の子孫がおります。文武両道の優れた青年ですが、息子にはいろんな面で負けぬよう、自分

のアイデンティティへの誇りを忘れぬよう言っています。きっと御先祖様同士が互いに切磋琢磨せよと再び同じ時代に巡り逢せたのだと思っております。

七 フォーラムの感想をお書きください。

○NHK大河ドラマを指すという大友氏顕彰会の活動に感動しました。

○大分市でのフォーラムに参加できませんでした。竹田市のフォーラムに参加してよかったです。

○配布された300頁に及ぶ『大友氏の風景(三)』は、各投稿者の視点から深く探られたことに驚嘆しています。これから帰ってじっくり読みたいと思います。

○地方で開催された昨年の「臼杵」、今年の「竹田」に関する大友時代の歴史について、講師やパネリストの皆さんが詳しく勉強になりました。

八 今後、フォーラムでやってもらいたいテーマや、会の活動に対する要望等何でもお書きください。

○NHK大河ドラマを達成し、改めて大友宗麟を全国の方々に知らしめてほしい。
○大分県内の各市町村の大友家臣団につい

て、詳しい紹介をしてほしい。
○大分県内や九州の山城フォーラムをやってもらいたい。

○(3人の方から)豊後大野市で立花道雪^{たちばなみゆき}をテーマに、佐伯市で佐伯氏をテーマに、津久見市でもフォーラムを開催してほしい。



【竹田市での大友氏顕彰フォーラム風景】